

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
（総括）研究報告書

聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の効果的な療育手法の開発等に資する研究

研究代表者 高橋 晴雄 長崎大学 医歯薬学総合研究科（医学系）客員研究員

研究要旨：難聴児療育のガイドライン、難聴児や保護者への療育情報のパンフレット、人工内耳（CI）術後の好事例および先天性難聴青年・成人でのCIの効果の冊子などを作成・配布し、難聴児のCIに関する適切な療育方法の全国的な周知を図った。

高橋 晴雄

長崎大学 医歯薬学総合研究科

客員研究員

A. 研究目的

本研究の目的は我が国での聴覚障害児の療育方法の問題点を改善し、最適な療育方法を確立して、全国的にそれを周知することである。

B. 研究方法

研究期間中に下記の方法で行った。

1. 難聴小児療育ガイドライン（GL）の作成
 2. 海外視察での聴覚障害児療育の調査と論文作成
 3. 人工内耳（CI）術後の多職種連携による好事例の収集
 4. 先天性難聴成人のCI効果の新知見収集
 5. 難聴児への情報提供用の小冊子作成（倫理面への配慮）
- 上記3, 4では研究対象者に十分説明してICを取得し、個人情報を遵守し、全施設で倫理審査を受けた。

C. 研究結果

1. GLは完成し、金原出版より出版された。
2. 海外視察報告書は提出し、学術論文としても出版した。
- 3, 4. 好事例、先天性難聴成人例のデータは冊子として当該機関に配布した。
5. 難聴疑い児、難聴確定児用の案内と、今後の療育のロードマップを示した計3種類の小冊子を作成し、配布した。

D. 考察

CI後の音声言語獲得には聴覚活用療育法が優れ、療育の過程で手話併用の優位性はみられないこと、聴覚活用療育法が音声言語発達に無効な難聴児の判別は療育開始前には困難なこと、等がわかった。難聴確定後には可及的早急にまず聴覚活用療育を始めることが音声言語獲得には得策と考えられた。

E. 結論

本研究の成果物が我が国での難聴児の適切な療育方法の普遍化と確立に役立つことが期待される。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表
小児人工内耳前後の療育ガイドライン2021年版. 2021年、金原出版、東京、高度・重度難聴小児療育ガイドライン作成委員会
2. 学会発表
①パネルディスカッション「ガイドラインのエッセンスと活用」. 第122回日耳鼻総会、京都市、令和3年5月13日.
②シンポジウム「高度難聴児の診療と療育」. 第16回日本小児耳鼻咽喉科学会、大阪市、令和3年7月8日.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案登録 該当なし
3. その他 該当なし